

日高軽種馬協会のたより

HBA

日高軽種馬農業協同組合

☎0146-22-2258 FAX 22-3452

令和3年11月20日

385

第

号

オートムセール開催 史上最高平均価格を記録

10月18日(月)から19日(火)、北海道市場オートムセールが開催された。今年は新規申込馬213頭、再申込馬244頭の計457頭が上場され348頭が取引となり、売却率は76.15%、売上総額は12億6,896万円となった。平均価格は本セール最高を更新する364万円となり、最高価格取引馬は上場番号372番ビヴァレツクイーン2020(販売申込者：(株)白井牧場)の2,530万円だった。購買登録者数は本セール最多を更新する1,000名を超える1,058名だった。(比較に関しては次頁参照)

今年のオートムセールは、開催1週間前の陽気な気候から一転、寒気が吹き込み氷点下に近づく寒空の下での開催を迎えた。新規申込馬のなかには朝日杯チャレンジカップを勝ったアルキメデスの半弟アーキオロジー2020や、母が阪神ジュベナイルフィリーズ2着の実績をもつダノンベール2020、北海道スプリントカップを勝ったメイショウアイアンの半妹デヒアバーズ2020など、母や兄弟に実績のある産駒もあり熱のこもった取引が期待される楽しいラインナップとなった。

また、オートムセール取引馬ではソリストサンダーが春のかしわ記念(Jpn I)で2着、10月11日におこなわれたマイルチャンピオンシップ南部杯(Jpn I)でも3着に好走するなど栄冠まであと一步まで迫っているほか、ギガキングは交流重賞勝ちのある強敵が揃ったダービーグランプリで堂々の勝利を飾り地方競馬3歳世代の主役へと躍り出た。さらに、10月13日におこなわれた川崎での2歳重賞・鎌倉記念ではシルトプレが優勝し、暮れの全日本2歳優駿の有力候補へ名乗りをあげるなど、各世代を盛り上げる活躍が目立っている。

セール取引馬の活躍に後押しされるように、市況も活況だった。初日の最高価格取引馬は近親にマイルチャンピオンシップを勝ったエイシン

アポロンがいる上場番号206番ミントフレッシュ2020(販売申込者：社台ファーム)の1,705万円だった。このほか、牝馬ながらも上場番号85番スターズバース2020(父：ラブリーデイ)、ハーズシャドウ2020(父：アメリカンペイトリオット)、上場番号199番マイネウェリナ(父：シルバーステート)が1,000万円を越える取引となりセールを盛り上げた。

前日に続きセール2日目も高額取引馬が登場する活発なセリとなった。ドゥラメンテ産駒の上場番号398番ベラルーナ2020(販売申込者：上村清志)は全姉セプテンベルが7月にメイクデビューを勝利するなどセクションセールでも注目を集めた一頭だったが欠場により本セールを迎えていた。1,200万円のファーストビッドから始めると、最後まで激しい競り合いが続き2,100万円でハンマーが落ち森中蕃氏によって落札となった。最高価格取引馬は上場番号372番ビヴァレツクイーン2020で、母は日本で重賞2勝の実績があるリアアメリカを輩出したリアアントニアの半姉という旬な血統背景の持ち主。400万円のファーストビッドから瞬間に1,000万円を越



最高価格取引馬 ビヴァレツクイーン2020
販売申込者：(株)白井牧場(門別)

えたあとも早いテンポでの競り合いが続いた末、2,300万円でハンマー。藤原正一氏により落札された。

オートムセールを終え、木村組合長は「サマーセールやセプテンバーセールに引けを取らない購

買登録数をいただいていたので期待はしていたが、これだけ高い数字を残していただいて感謝している。オンラインに関しても当初に比べて使い方も定着してきたように感じる。これからも上手く利用してもらいたい」と振り返った。

【オートムセール 5年間の比較】

	令和3年	令和2年	令和元年	平成30年	平成29年
平均価格	↑ 3,646,436	↑ 3,451,890	↓ 3,199,281	↑ 3,479,952	↓ 3,461,112
中間価格	↓ 2,970,000	↑ 3,190,000	↓ 2,750,000	↑ 2,916,000	↑ 2,808,000
出場頭数	↓ 457	↑ 466	↓ 432	↑ 704	↑ 675
売却頭数	↓ 348	↑ 365	↓ 320	↓ 505	↑ 507
売却率	↓ 76.15%	↑ 78.33%	↑ 74.07%	↓ 71.73%	↑ 75.11%
売上総額	↑ 1,268,960,000	↑ 1,259,940,000	↓ 1,023,770,000	↑ 1,757,376,000	↑ 1,754,784,000
購買登録者数	↑ 1058 (62)	↑ 1,004	↓ 801	↑ 877	↑ 839
購買実数	↓ 242	↑ 243	↓ 223	↓ 294	↑ 319

※ 単位 (円、頭、名)、価格は税込、矢印は前年対比
※ 令和3年の () 内はオンラインによる登録者数

ホッカイドウ競馬 全日程が終了

11月4日(木)の開催をもってホッカイドウ競馬2021年シーズン全日程を終了した。本年度の馬券発売金額は522億9969万2470円となり昨年度の520億4480万6060円を上回り発売レコードを更新した。ホッカイドウ競馬では今年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、場外発売所の一部で休業や時短営業の実施や、門別競馬場でも無観客開催や入場制限をおこなったが、インターネット発売が全体に占める割合の95%を超える盛況もあり、2年連続で500億円の大台を突破する結果となった。

4月14日(木)に開幕し、82日間の開催日数でおこなわれた今年度も様々なドラマや活躍馬が誕生した。在厩馬でも常時屋根付きの坂路での調教が可能となっており、特に2歳戦のレベルの高さはファンの間でもお馴染みとなっているが、10月14日(木)におこなわれた、2歳牝馬による大一番エーデルワイス賞 (JpnⅢ) ではホッカイドウ競馬所属のスピーディキックがJRA所属馬を相手に後方から上がり最速の末脚を繰り出し、見事勝利をおさめた。

また、昨年おこなわれたJBC2歳優駿の初代王者ラッキードリームは、3歳三冠路線の第一関門、北斗盃から始動するところを完勝。勢いそのままに、北海優駿、王冠賞も制し見事三冠達成となった。なお、三冠達成は2019年のリンズウチャネル以来2年ぶり、6頭目の快挙だった。

一方、8月12日(木)におこなわれたブリーダーズゴールドカップ (JpnⅢ) を勝利したJRA所属

のマルシュロレーヌは、先日おこなわれたアメリカ・ブリーダーズカップディスタフを制し、日本馬が初めてアメリカのダートGIを勝利する歴史的快挙を達成し、門別競馬場で勝利した馬がその後、世界の大レースを勝利するという明るいトピックスとなった。

開催最終日におこなわれた、道営スプリントでは快速馬アザワクが持ち前のスピードを活かした逃げの戦法で後続を引き連れ、最後は同じ角川厩舎のスティールペガサスとの叩き合いを首差凌いで勝利。最終レースにおこなわれた伝統の道営記念では昨年の覇者クインズサターンが道中は中団に控え、4コーナーでは早くも先頭に立つ横綱相撲で堂々の連覇達成でグランドフィナーレを飾った。ホッカイドウ競馬のそれぞれの路線の先頭を引っ張る2頭が最後は持ち味を活かした競馬で勝利を飾り、開催最終日を盛り上げた。



道営記念を制したクインズサターン

令和3年度の北海道市場を振り返って

トレーニングセール／2年ぶりの開催。北海道市場では初のオンラインとの併用開催。同セール出身の父の産駒が最高価格取引馬に。

5月11日(火)、札幌競馬場にてトレーニングセールが開催された。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み中止としたため2年ぶりの開催となった。セール前日におこなわれた公開調教では、ラスト1Fで10秒台を記録した馬は父にモーリスを持つカシマフラワー2019の1頭のみだったが結果的に本馬が3,300万円で最高価格取引馬となった。

結果は、124頭上場で83頭が落札となり、総売上金額は6億5,131万円となった。売却率は66.9%、平均価格は前開催比較で98万円増の638万円だった。

セレクションセール／レコード尽くめの1日。総売上は40億円を突破。売却率はセレクションセール史上最高を記録。

7月27日(火)、北海道市場にてセレクションセールが開催された。昨年より名簿掲載頭数が15頭増となったがその内容は濃いものとなり、2年連続でクラシック戦線を賑わせたエピファネイア産駒が16頭上場と楽しみなものだった。結果として、そのエピファネイア産駒が取引価格でのワンツートとなり、スマッシュ2020が5,940万円で、スリーアロー2020が6,600万円でそれぞれ落札となった。

結果は、234頭上場で202頭が落札となり、総売上金額は40億1,577万円となった。売却率は86.3%、平均価格は1,988万円、中間価格は1,760万円とすべてがセールレコードだった。

サマーセール／売却頭数が初の1,000頭超え。シルバーステート旋風巻き起こる。総売上は過去最高の69億円を記録。

8月23日(月)～27日(金)、北海道市場にてサマーセールが開催された。当初の予定より大幅に申込頭数が増え、4日間開催から5日間開催へと変更

された。14頭が落札となったシルバーステート産駒の平均価格が1,598万円を記録し、旋風を巻き起こした。

結果は、1,336頭上場で1,004頭が落札となり、総売上金額は69億1,240万円となった。売却率は75.1%、平均価格は688万円だった。

セプテンバーセール／ここでも売却率70%以上をキープ。セール史上初の3,000万円超えの落札馬も誕生。

9月21日(火)～22日(水)北海道市場にてセプテンバーセールが開催された。各指標ではすべて前年比較で減となったが、アマルフィターナ2020がセプテンバーセールでは初となる3,000万円超えの3,410万円で落札となり明るいトピックスが加わった。なお、この時点をもって北海道市場全体として昨年度記録した127億8,233万円のレコードを上回る132億6,963万円を記録した。

結果は、478頭上場で346頭が落札となり、総売上金額は16億9,015万円となった。売却率は72.4%、平均価格は488万円だった。

オートムセール／平均価格はオートムセール史上最高を記録。売却率は76.1%と高水準を記録。

10月18日(月)～19日(火)、北海道市場にてオートムセールが開催された。初日の新規申込馬から2日目の再申込馬に至るまで淀みなく取引が続き、最高価格取引馬はセレクションセールからの再申込馬ビヴァレッジクイーン2020の2,530万円となった。

結果は、457頭上場で348頭が落札となり、総売上金額は12億6,896万円となった。売却率は76.1%でオートムセール史上最高、平均価格は364万円だった。

また、1年を通し活況のままセールが開催された本年度の北海道市場は昨年度記録した売上総額127億8,233万円のレコードを145億3,859万円へと更新した。

【北海道市場 5年間の比較】

	令和3年	令和2年	令和元年	平成30年	平成29年
平均価格	↑ 7,331,614	↑ 7,004,016	↓ 6,213,287	↓ 6,239,987	↑ 6,465,748
出場頭数	↑ 2,629	↓ 2,362	↑ 2,591	↑ 2,527	↓ 2,318
売却頭数	↑ 1,983	↓ 1,825	↑ 1,901	↑ 1,799	↑ 1,796
売却率	↓ 75.43%	↑ 77.27%	↑ 73.37%	↓ 71.19%	↑ 77.48%
売上総額	↑ 14,538,590,000	↑ 12,782,330,000	↑ 11,811,458,000	↓ 11,225,736,000	↑ 11,612,484,000

※ 単位 (円、頭)、価格は税込、矢印は前年対比

J R A 令和4年度開催日割、重賞競走について

先般、J R Aは令和4年度の開催日割及び重賞競走について発表しました。以下に主な内容について、掲載いたします。

1. 開催日割について

①年初および年末の開催について

年初は1月5日（水）、中山・中京競馬を開催。年末は12月28日（水）に中山・阪神競馬を開催いたします。

②祝日を利用した開催について

1月10日（月）	【成人の日】	中山・中京競馬
3月21日（月）	【春分の日】	中山・中京競馬
9月19日（月）	【敬老の日】	中山・中京競馬
10月10日（月）	【スポーツの日】	東京・阪神競馬

③京都競馬場整備工事に伴う開催の振替について

京都競馬場整備工事を行うため、令和3年度開催日割と同様に、平年の京都競馬を阪神および中京競馬に振り替えることといたします。

④夏季競馬の開催について

7月30日（土）から8月7日（日）は、暑熱対策の観点から、札幌および新潟の2場開催といたします。また、北海道競馬は平年と同様に、函館、札幌の順といたします。

⑤開催日数について

・札幌競馬	2開催14日	・東京競馬	5開催45日
・函館競馬	1開催12日	・中京競馬	6開催45日
・福島競馬	3開催20日	・阪神競馬	6開催54日
・新潟競馬	4開催26日	・小倉競馬	4開催30日
・中山競馬	5開催42日		

2. 重賞競走について

①葵ステークス（重賞）のGⅢ格付申請について

3歳スプリント路線の拡充を目的に平成30年に重賞競走として新設された葵ステークス（重賞）について、日本グレード格付管理委員会にGⅢ格付けを申請いたします。なお、GⅢ格付けが承認された場合は、新たに格付けをおこないます。

②開催日割の変更に伴う実施日・実施場等の変更について

開催日割の変更に伴い、一部重賞競走の実施日・実施場等を変更いたします

※ 次号にJRA令和4年度（2022年）重賞競走一覧を掲載いたします。

助成金申請種類提出のお願い（レポジットリー・せり馴致預託料）

助成金申請に必要となる各書類について、お手元に揃いましたら提出をお願いします。

レポジットリー

- 計画書・申請書
- 撮影料請求書・領収書の写し

せり馴致預託料

- 計画書・申請書
- 預託契約書の写し（捺印についてご確認ください。）
- 預託料請求書・領収書の写し

※本年より11月～12月のお手続き分は翌年1月～2月の交付となる場合があります。交付までに時間を要しますので、スムーズな補助金交付が出来るよう、速やかな書類の提出にご協力をお願いいたします。

お問い合わせは 軽種馬農協 業務部（0146-42-1200）までお願いします。

理事会の内容について

【第9回理事会】

◇令和3年10月15日 13時30分 静内支所

〈報告事項〉

1. 第11回市場委員会の内容について
2. 第13回引退競走馬に関する検討会の内容について
3. JBB A第4回理事会、第1回種牡馬管理配合委員会、第5回理事会の内容について

4. JRA第1回生産等に関する協議会の内容について

5. 第1回配合委員会の内容について

6. 第7回総務・診療委員会の内容について

〈議 案〉

1. 組合員の加入について

〈協議事項〉

1. その他

馬の離乳について

昨年2月に入社し、現在浦河の荻伏診療所に勤務しています、和智荘平（わち そうへい）です。よろしくお願い致します。今回は馬の離乳について書かせていただきます。

母馬・仔馬に訪れる一大イベントである離乳ですが、生産者の皆様はどのようにして離乳の時期を決定していますでしょうか。離乳の目的は、お腹の中の胎子成長のための母体の十分な栄養確保、及び母乳分泌機能の一定期間の休養により、次の出産に備えることであるといわれています。

仔馬に関しては生後4ヶ月～6ヶ月齢で離乳すると成長に差がないことが報告されています。離乳のストレスによる体重減少を最小限にとどめ、病気や事故の発生を防止するためには、極端な早期離乳は避けたほうがよいと思います。これらに加え気候や放牧環境を考慮すると北海道では9月～10月に離乳するのが理想的だと考えられます。

離乳方法は仔馬へのストレスを可能な限り軽減できるような方法が良いです。一例として段階的に複数頭ずつ母馬を仔馬から離していく方法を紹介させていただきます。

放牧している母子を一斉に離した場合、仔馬達はパニックになり、ケガをするリスクが高くなります。このような事故を回避するために保母役（当年に子のいない穏やかな性格の牝馬）の成馬を加えた状態で母馬を段階的に離していく方法です。こうすることで、群の中で離乳のしていない母子や以前に離乳した仔馬が平常でいられるので、離乳された仔馬はパニックになりにくいと考えられます。どの母馬から離していくかはその仔馬の月齢や成長速度から判断するとよいと思います。最終的に保母役の牝馬と仔馬の群となり（写真1）、仔馬が母馬のいない状態で放牧に適応できていると判断されたタイミングで保

荻伏診療所 和智 荘平

母役の牝馬を離すことで離乳は完了します。



写真1: 保母役の牝馬（芦毛）と離乳された仔馬

最後に、離乳後の注意点です。ストレスがかかる仔馬の健康状態（特にローソニア感染症）に注意することはもちろんですが、母馬の乳房炎（写真2）にも注意が必要です。運動量が確保できない母馬は発症し易くなります。症状としては、発熱や乳管から膿性乳汁の排出、乳房が張り触ると嫌がる、また腫れている側の後肢の歩様がおかしくなるなどです。発症した場合には、抗生剤や痛み止めの投与などの治療が必要になります。



写真2: 右側の乳房炎発症馬（JRA日高育成日誌より抜粋）

今回、離乳の方法について書かせていただきましたが、生産者の皆様には様々な事情で離乳の時期を決定すると思われます。今回の話をもとに皆様各々の離乳方法を見つけていただけましたら幸いです。最後までお読みいただき、ありがとうございます。